令和５年度 日本水産増殖学会第 21 回大会

日程

12 月２日（土）水産増殖学会シンポジウム

12：00　開場

13：15～17：00　シンポジウム

水産海洋学会地域研究集会、福井県立大学と共同開催

「自然の恵みを利用した増養殖研究の新たな可能性を考える～水産海洋学と水産増養殖学のコラボレーション～」

（内）14：25～15：30　高校生ポスター

18：00～20：00　懇親会

12 月３日（日）口頭発表・ポスター発表

8：00　開場

8：50～ 8：55　日本水産増殖学会会長 挨拶

8：55～ 9：00　令和５年度日本水産増殖学会大会委員長 挨拶

9：00～12：12　口頭発表

12：12～13：30　ポスター立ち合い

12：00～13：00　評議員会

13：30～15：42　口頭発表

16：00～16：15　若手優秀講演賞表彰式

開催場所

シンポジウム・研究発表（口頭発表・ポスター発表）

福井県小浜市（福井県立大学小浜キャンパス　新講義棟　大講義室２）

http://www.fpu.ac.jp/kaiyo/access/d152380.html

懇親会

合同シンポジウムの終了後、場所　居酒屋　秀

住所　福井県小浜市府中 15-13　　電話　0770-53-2239

https://mapfan.com/spots/S5YIA,J,PGJ620

バスの発着場所と時刻

バスの発着場所

小浜駅前のロータリー　学会スタッフが誘導します

福井県立大学小浜キャンパス　管理研究棟前ロータリー

三福タクシーの大型バス使用

発着時刻

12 月 2 日

行き

12:35　小浜駅発

12:50　福井県立大学小浜キャンパス着

帰り

17:20　小浜キャンパス発

17:30　小浜　道の駅　経由　**（懇親会参加者は降車）**

17:45　小浜駅着

12 月 3 日

行き

8:15　小浜駅発

8:30　福井県立大学小浜キャンパス着

帰り

16:30　小浜キャンパス発

16:45　小浜駅着

12 月 3 日の午前に口頭発表をされる方は、できるかぎり **12 月 2 日に発表ファイルのインストール**をお願いいたします。

ファイル名は「講演番号＋氏名」です

口頭発表：例「O-3(O はアルファベットの O)+氏名」

ポスター発表：例「P-5＋氏名」

令和 5 年度水産増殖学会シンポジウム
自然の恵みを利用した増養殖研究の新たな可能性を考える
～水産海洋学と水産増養殖学のコラボレーション～

日時：2024 年 12 月 2 日（土）13:15～17:00
場所：福井県立大学小浜キャンパス（福井県小浜市学園町 1-1）新講義棟・大講義室 II
共催：水産海洋学会・福井県立大学
コンビーナー・座長：富永 修・濵口昌巳・渡慶次 力（福井県立大海洋生物）

司会：渡慶次 力（福井県立大海洋生物）

開会挨拶　13:15～13:25
　木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会会長）
　都木靖彰（日本水産増殖学会会長）
　佐藤秀一（令和 5 年度日本水産増殖学会第 21 回大会委員長）

開催趣旨説明　13:25～13:35
　渡慶次　力（福井県立大海洋生物）

座長: 富永 修（福井県立大海洋生物）
1. 海洋環境・生態学からみた二枚貝類増養殖のこれまでとこれから
　濵口昌巳（福井県立大学海洋生物）　13:35～14:05
2. 福井県のバフンウニ漁の実態から見えてきた持続的な資源利用の仕組み
　仲野大地（福井県水産試験場）　14:05～14:25

　ポスター発表（高校生）・休憩　14:25～15:30

座長: 濵口昌巳（福井県立大海洋生物）
3. 小浜市のかき類養殖の取り組み
　上村洋亮（小浜市里山里海課）・松下卓也（小浜市漁協）　15:30～15:50
4. 福井県立若狭高等学校における探究活動
　中村 恵美莉（福井県立若狭高等学校）　15:50～16:10

総合討論　16:10～16:45
　座長:富永 修・濵口昌巳・渡慶次 力（福井県立大海洋生物）

ポスター発表表彰　16:45～16:55

閉会挨拶　16:55～17:00

富永　修（福井県立大海洋生物）

開催趣旨：2022 年に福井県立大学に新設された「先端増養殖科学科」は，若狭湾を実験フィールドとして，水産科学，ゲノム科学，環境科学，情報科学の幅広い視点から増養殖学研究を展開する。その中で無給餌養殖を主要テーマの一つに挙げている。無給餌養殖は自然の生産力を利用することから，海洋環境の情報を最大限に活用した持続可能な増養殖システムといえる。しかし，養殖生産を効果的に進めるためには，海洋環境のモニタリングを実施し，現状の把握や時空間変動を予測することが求められる。特に，幼生を自然採苗する場合は，物理環境だけでなく幼生の分布や季節的動態も不可欠な情報になる。無給餌養殖業は，それ自体が生業であり，流通・販売や観光などを通して地域振興の役目を担い，さらには自然環境を五感で感じながら社会活動を学ぶ海洋リテラシーの観点からも重要である。本シンポジウムでは，かき類とバフンウニをとりあげ，地域振興や教育の視点からの事例も紹介し，水産海洋学と水産増養殖学のコラボレーションがもたらす水産増養殖研究の新たな可能性を議論する。

12 月 3 日（日）口頭発表・ポスター発表

口頭発表　　午前 9:00～12:12　午後 13:30～15:42

講演番号	開始時刻	演者	発表演題	若手発表
午前				
O-1	9:00	菅原和宏	アユのスレ症に対する塩水浴の適正濃度と治療効果	
O-2	9:12	松原 創	魚類のストレスを軽減する炭酸麻酔	
O-3	9:24	畠山 類	異なる飼料で育成されたニホンウナギの後期レプトセファルスとそれに由来するシラスウナギの表現型の特徴	
O-4	9:36	畠山 類	異なる飼料で育成されたニホンウナギの後期レプトセファルスとそれに由来するシラスウナギのトランスクリプトーム解析	
O-5	9:48	木多由梨	アメリカミズアブ飼料を与えたニシキゴイで見られた白血球貪食能の向上	若手
O-6	10:00	山田良希	海水馴致中のニジマス腸内細菌叢のモニタリング	若手
O-7	10:12	小谷知也	ニホンウナギ*Anguilla japonica*生殖腺の 非侵襲的解析の検討	
O-8	10:24	佐藤桜雅	ゲノム編集と組換え濾胞刺激ホルモンによるマサバの生殖統御の試み	若手
O-9	10:36	林田貴雄	クロマグロの性分化機序の解明	若手
O-10	10:48	古賀灯真	トラザメ雄の生殖器官の発達と性ホルモン変動	若手
O-11	11:00	Rensep Husneya	Reproductive Characteristic of Mud Crab, *Scylla olivacea*, in the Southern Regions of Thailand	若手
O-12	11:12	高橋将大	クロウミウマ*Hippocampus kuda*の栄養要求の解明	若手
O-13	11:24	松本暢久	大豆原料による飼料中魚粉の代替が２種のブリ抗菌ペプチド遺伝発現量の応答に及ぼす影響	若手
O-14	11:36	川崎琢真	エゾバフンウニ種苗へのウニ養殖用配合飼料の給餌効果	若手
O-15	11:48	杉浦省三	骨なし魚の養殖技術：飼料原料の洗浄効果	
O-16	12:00	阿部泰画	漁獲された成熟雌から獲得した排卵卵を用いたコシナガ種苗生産の試み	若手
午後				
O-17	13:30	小泉 晶	アカウニ循環水槽飼育時における飼育水の細菌叢の変化	若手
O-18	13:42	沖本恭平	スルメイカ幼生の卵黄吸収期前後の生態	若手
O-19	13:54	松本涼太郎	キュウリウオ仔稚魚の成長と耳石形状の変化	若手
O-20	14:06	福西悠一	ノドグロ（アカムツ）種苗に有効な標識方法の検討	若手
O-21	14:18	﨑野琳久	長崎近海と八重山諸島における アカハタ（Epinephelus fasciatus）の年齢と成長の比較	若手
O-22	14:30	佐藤正人	米代川支流糠沢川における夏季のサクラマス親魚の定位場所および定位点	若手
O-23	14:42	藤本貴史	天然で採捕されたマスノスケ子孫の海水適応能力	
O-24	14:54	岡田のぞみ	シシャモ種苗生産における餌料系列の検討	
O-25	15:06	中里享史	パンケ沼に生息するヤマトシジミ減少要因の検討	
O-26	15:18	山本昌幸	イイダコの体重と産卵数および卵サイズの関係	
O-27	15:30	田子泰彦	神通川下流域におけるモクズガニの出現	

ポスター発表　　12:12～13:30

講演番号	演者	発表演題	若手発表
P-1	平尾　真也	根室海峡野付半島沿岸における ヒトデ類2種の個体数変動およびホタテガイ成貝との捕食・被食関係	若手
P-2	小野木健起	マダイ粘液からの非侵襲的ゲノムDNA抽出と ゲノムワイド解析への応用	若手
P-3	川崎　琢真	キタムラサキウニ海中養殖への給餌条件の影響および事業収支試算	若手
P-4	北原海音	水温上昇期におけるコーヒー粕添加飼料がブリの成長と脂質代謝に与える影響	
P-5	辻村浩隆	近年の大阪府におけるハモの漁獲実態	
P-6	青木政人	魚類のプロジェクター光による行動制御法の開発-Ⅶ　アユ仔魚の摂餌率等に及ぼす光波長の影響	若手
P-7	今岡　史弥	小型カプセル水槽を用いた 確実なマサバ催熟技術の開発	若手
P-8	林　裕一	小島でのガンガゼ駆除による藻場の回復	
P-9	山崎祐人	なぜ海中養殖のサクラマスの体サイズはばらつくのか？ PITタグとカメラ計測による成長追跡	若手
P-10	野田　勉	ヒジキの人工種苗を用いた養殖適条件の探索	
P-11	松原創	ニホンイトヨの初期発生を制御する環境要因	
P-12	児玉　敦也	福井県の養殖における新たな取り組みについて	若手
P-13	原 誠二	イワガキにおける早期採卵技術と三倍体化技術の開発	若手